熱い心と癒しの心

ホッとハート

2018 冬号 Winter

鹿児島徳洲会病院広報誌

健康医療 TOPICS！

日すでに暮れてなお焔(えん)霞(か)絢爛(けんらん)たり。
歳(とし)将(まさ)に晩(くれ)んとして更に橙(とう)橘(きつ)芳(ほう)馨(けい)たり。
故に末路晩年は君子更に宜しく精神百倍すべし。

［菜根譚　久須本文雄　講談社］

医師
顧問兼
呼吸器センター長
川原　克信

これは菜根譚に書かれている一文である。太陽が没して黄昏となっても、なお夕(ゆう)靄(もや)の焔(けむり)や夕焼けがきらびやかに美しく輝いている。また歳が暮れ行こうとする年の終わりであっても蜜柑類は芳ばしい香りを放っている。自然がそうなのだから、人は晩年を迎えてこそ百倍も奮起して働くのがよい、という意味である。

菜根譚は処世や修養の要訣を説いた人生の書、心の書として広く日本人に親しまれている。作者は洪自誠という中国明代の人。仏教、道教、儒教に通じ、博学高潔の士で隠遁閑居し人格の練磨に励んだと言われている。仏教に関しては禅に通じるものが真に多い。

私も既に古希を迎え、まさに人生の黄昏時である。人間としても外科医としても枯れなんとする時期である。しかし生涯の仕事として励んできた手術をまだまだ続けたいという思いを捨てることができない。まさにこの一文は私を励まし鼓舞してくれる。

身体の衰えは如何ともし難く、運動や生理機能は若者にはとうてい及ばない。視力の衰えは外科医の生命を断つことになる。　もし私が胸腔鏡手術を手掛けていなければ、とっくにメスを置いていたであろう。

胸腔鏡手術はモニターに映し出される鮮明で拡大された映像を見ながら操作を行う。視力の落ちた目にもルーペで見るよりよく見える。また肋間に挿入したポートが支えになって手の震えが緩衝され、ハサミや攝子がぶれない。細かい操作も可能である。

内視鏡手術は私の外科医としての寿命を延ばしてくれている。“年寄りの半日仕事”と開き直って、急がず慌てず、ゆっくりと操作すれば仕上がりは先ず先ず。出血の少ない良い手術(Zollinger-Ellison)が可能。

老いが身のあわれを誰にかたらまし　杖を忘れて帰る夕暮れ　（良寛）

禅宗の僧侶、良寛の句である。杖を頼りに出かけたはよいが、帰りにはその頼りの杖を忘れて、とぼとぼと夕暮れの道を帰る老いた身の悲しさ、老いの衰えを誰に云うべくもない。若いとき手術の助手は誰でもよかった。今は違う。杖と頼りにできる者とでなければ難しい手術はできなくなった。

老い人は心よわきものぞみこころを　なぐさめたまえ朝な夕なに　（良寛）

老人に寄せる良寛の温かく慈愛に満ちた心根を垣間見ることができる。

しかし、こんな風に周りでささやかれるようになったら手術なんか止めたがいい。不安と恐れを抱いている手術患者を慰め励ますのが外科医である。自らが慰め、慰められていては、手術なぞできるものではない。

私の歳で手術を行っている呼吸器外科医はそれほど多くないと思う。手術をすることが可能な精神的身体的条件を保持していても、身を置く社会的環境が許さない。

古希を迎えて、「手術をしたい」などと云うのは身勝手なことかもしれないが、我儘を許してくれる友人や同僚、そして鹿児島徳洲会病院に心から感謝申し上げたい。

第６５回 おはら祭

今年で65回目を迎えるおはら祭に27年間生きてきて初めて参加しました。

練習不足を痛感したおはら祭となりましたが、周りの声援やスタッフとの交流もできとても楽しい時間が過ごせました。

私は3月より当院へ転勤してきました。転勤前の病院は、互助会がなく、院内行事も新人歓迎会・忘年会くらいしかなく他部署スタッフとのコミュニケーションも業務内で完結するものでした。

転勤後は、定期的な互助会イベントによるスタッフとの交流が活発にでき、すぐに職場の雰囲気になじむことができました。今後も院内行事に積極的に参加し、院内の輪を広げていきたいです。

情報システム管理室　　永野　雄志

オーストラリアがん看護研修に参加して

11月末4泊6日間でオーストラリアがん看護研修に参加しました。メルボルンは、近代的な高層ビルと歴史ある建物や緑が共存し美しい街並みで、その街中にあるPeter Macがん専門病院とバンクシア緩和ケアセンターで行われました。

研修内容としては、オーストラリアの医療事情・がんセンターの役割・ナースの役割・リスクのレクチャーが行われました。Peter Mac病院は、外見はメルボルンの高層ビルと同じように近代的だが内側は白を基調とし壁は木目。中央に吹き抜けがあり、地下まで光りが通り、角もなく病院という感じでなく優しい空間で心地よさを感じさせるところでした。レクチャーの中で、Peter Mac（病院の創立者）が言ったことで印象に残る言葉があります。

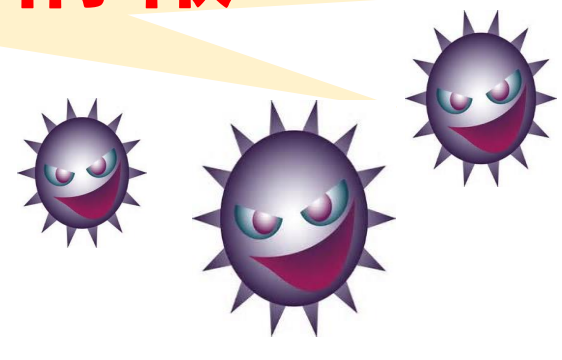
「最大なサービスを与えることができなければ、しない方がいい」という言葉です。スタッフは、この言葉の意味を理解し、キャリアを罪スキルアップできるよう教育システムがしっかりしていることや、日々働いているのだと思いました。多種民族で宗教や文化は違うが、辛い体験をしている一人ひとりの患者を尊重し、チーム医療の大事さ、ナースの役割がとても重要であることを改めて学びました。
緩和ケアセンターでも、End・of・lifeを援助し、最良の在宅での生活を手助けしています。病院でも緩和ケアセンターでもボランティアが活躍し、又、セラピー犬がいやしていました。

今回、研修に参加し、これから自分が人としてしなければならない事を考え実践できるよう努めていこうと思いました。
オーストラリアは料理の量も多いですが、お肉は美味しかったです。
フリータイムでは、ワイナリーに行きましたが、ワインも美味しく広大な自然に癒やされました。

看護部　川邉

感染
委員会より

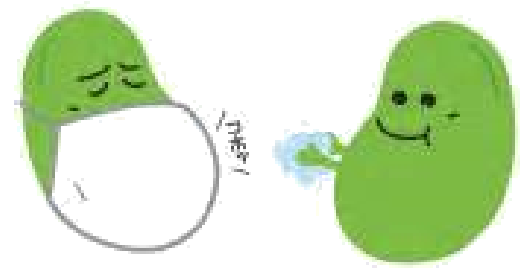
インフルエンザ情報



皆さまご存知の『インフルエンザ』
今年は例年より早い流行入となっています。
インフルエンザは極力入院を避けていただきますが、 重症化していると入院をする可能性もあります。
感染を防ぐため、**飛沫感染予防策**と**手指衛生徹底**しましょう。
咳エチケットの心掛けも忘れずに。

●●●マスクの着用ポイント●●●

①. 鼻と口をしっかりおおう
②. マスクの上の金具（ノーズピース）を自分の鼻と頬形に合わせる
③. プリーツをあごまで広げる



感染管理担当
看護副主任　川畑　リカ

ほっとスタッフ

リハビリ部

作業療法士　米村　信吾

現在4階病棟を中心に患者様と「楽しくリハビリを」をモットーに日々リハビリに取り組んでいます。徳洲会病院に就職する前は谷山にある病院で3年と半年働き、鹿児島中央駅近辺にある屋台村の中にある店舗の店長として少し働いていました。
なぜ、飲食店の店長に??と思われる方もいると思いますが、理由として店舗の社長とお話する機会があり経営の話は勿論の事、働き方やお客様に対する考え方が非常に興味を持ったのが理由と言えます。
飲食業と医療にも共通な事がありどちらも人と関わる仕事だと言うこと。知識や技術を持っていたとしても提供の仕方が悪ければ評価として低くなるばかりです。当初の私は知識や技術ばかりを求めていた部分もあるため、飲食業を通して知識や技術は身につけながら無いなりにどの様に提供すればお客様が喜び、利益に繋がるかということを働きながら学ぶ事が出来ました。半年間で得た事や縁あって出会った方とも今でも良くして頂くなかで色んな業種から学ぶことが出来る事が今の僕の財産となっています。
これからも自分自身とこの職場を通してより良いリハビリや医療を提供していけるように頑張って行きたいと思います。

リハビリ部

作業療法士　　折増　春菜

鹿児島徳洲会病院に入職し約３年が経過します。この病院に入職し、たくさんの先輩や後輩、そして患者様と出会い色々な経験をする事が出来ました。嬉しい事ばかりではなく辛い事や悔しい事もたくさんあり、自分の地元である宮崎に帰りたいと思った事も何度もありました。それでも支えてくれる方々がいたおかげで約３年頑張ってこれたのだと思います。もう３年…いや、まだ３年。まだまだこれから人生は長く遠いです。これからも、元気に笑顔で過ごし様々な方とコミュニケーションを図り、患者様によりよいリハビリテーションを提供していけるよう頑張りたいと思います。
プライベートに関しては、最近自分にあう趣味はないか模索中です。基本的にスポーツ等運動することはとても好きなので、何か探せたらいいなと思っています。
このスポーツがおすすめとか、スポーツ以外でもこういったのがおすすめ！等ありましたら、是非是非、私にお声掛けください。これからもどうぞ折増春菜をよろしくお願いいたします。

発行日／平成三十年十一月十二日
発行人／池田佳広
発行／鹿児島市下荒田3－18－1
鹿児島徳洲会病院

栄養NEWS

冬の食中毒　～ノロウイルス～

11～2月がピークに！ノロウイスルの食中毒

冬場に多く発生する代表的なものがノロウイスルで、年間を通してみると食中毒にかかった患者が最も多いのがノロウイルスによるものです。

また、ノロウイスルによる食中毒はウイルス感染とういう特性から、感染する力が極めて強く、学校や病院などで発生した集団感染の大半はヒトからヒトへ感染して広がっていきます。

大規模になりやすいので、発生した場合は適切な対処をして感染拡大を防ぐことが大切です。

ノロウイルスの主な原因食品は牡蠣・あさり・シジミなどの二枚貝ですが、ウイルス性食中毒の感染は食品からだけでなく、ヒトや食器などからも経由して広がります。少量でもウイルスが体内に入ると腸内で増殖して、吐き気や嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こします。幼児や高齢者、病気治療中の人は症状が重くなる場合もあります。

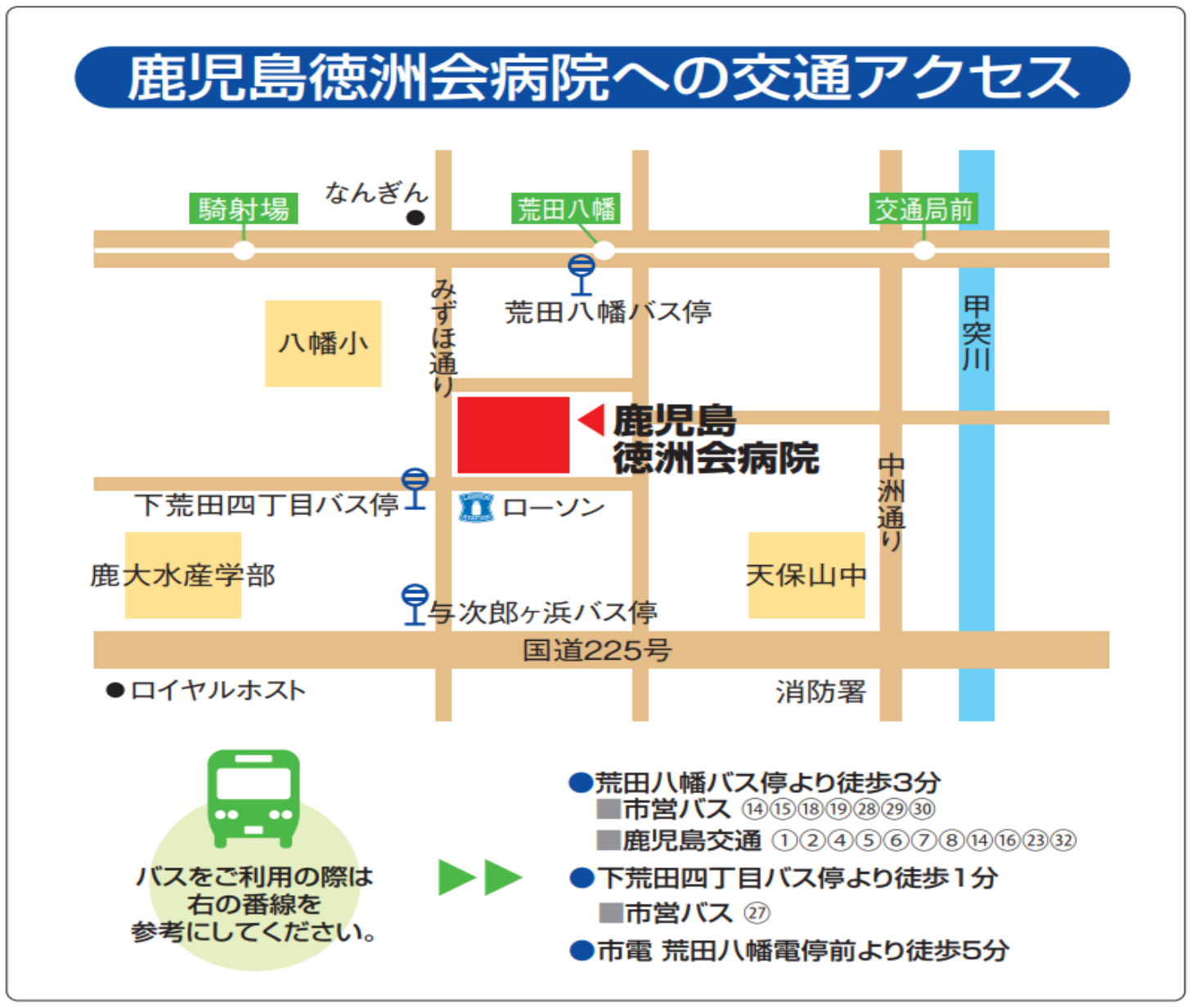
予防法

・手洗いをこまめに、ていねいに行う。
・魚介類を調理するときは、中心部を1分間85°C以上で加熱。
・まな板や布巾などの調理器具は塩素系漂白剤にて消毒。
・栄養や睡眠を十分にとり体調管理を。

食生活で食中毒予防

食中毒を防ぐには、ウイルスに対する抵抗力と、免疫力をアップさせる食生活を心がけましょう。

・多品目の食品を、１日３回の食事でバランスよく食べる。
・腸内の善玉乳酸菌を増やす食品を積極的にとり、腸内環境を整える。
・抗菌作用のあるハーブ・薬味などを上手に利用する。



職員募集のお知らせ

徳洲会病院では下記の職種の方を募集中です

「看護師」
「看護補助者」
「保育士」
「調理師・調理員」

詳しくは当院のホームページをご参照ください

採用情報